



平成 30 年 2 月 7 日

各 位

会社名 オーナンバ株式会社
 代表者名 代表取締役社長 遠藤 誠治
 (コード番号 5816 東証第二部)
 問合せ先 執行役員企画経理部長 木嶋 忠敏
 (TEL. 06-6976-6101)

(補足資料)「通期業績予想の修正に関するお知らせ」の補足説明について

当社は、平成 30 年 2 月 5 日に公表しました「通期業績予想の修正に関するお知らせ」について、下記のとおり「報告セグメント」別に補足説明をいたします。なお、数値データについては、訂正などはありません。

記

1. 平成 29 年 12 月期通期連結業績予想数値の修正(平成 29 年 1 月 1 日～平成 29 年 12 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 35,000	百万円 1,100	百万円 1,100	百万円 600	円 銭 47 86
今回修正予想 (B)	36,400	480	680	390	31 11
増減額 (B - A)	1,400	△ 620	△ 420	△ 210	—
増減率 (%)	4.0	△56.4	△38.2	△35.0	—
(ご参考) 前年実績 (平成 28 年 12 月期 通期)	36,896	1,213	1,072	△363	△29 03

2. 修正の理由

平成 29 年 12 月期の連結業績予想につきましては、売上高は、自動車・産業機器用製品などの分野での製品開発・新規開拓の促進などの施策を進めた結果、計画を上回る見込みです。

利益面では、太陽光発電関連製品の売上高の減少や品種構成の悪化などにより、営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益は、前回公表予想を下回る見通しとなりました。

(補足説明)

修正の理由

平成 29 年 12 月期の連結業績予想につきましては、売上高は、当連結会計年度立上りの新製品切替時期の延期などがありましたが、自動車・産業機器用製品などの分野での製品開発・新規開拓の促進などの施策を進めた結果、計画を上回る見込みです。

利益面では、太陽光発電関連製品の売上高の減少、下半期の新製品切替時期の延期・在庫調整などによる品種構成の悪化、自動車・産業機器用製品の生産能力以上の受注や生産拠点の再編・移管などによる生産コスト増加などにより、営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益は、前回公表予想を下回る見通しとなりました。

なお、売上高・営業利益の増減の詳細につきましては、次の「報告セグメント」をご参照ください。

	日本			欧米			アジア (日本を除く)			合計		
	前回 発表予想	今回 修正予想	増減	前回 発表予想	今回 修正予想	増減	前回 発表予想	今回 修正予想	増減	前回 発表予想	今回 修正予想	増減
売上高	19,500	20,800	1,300	8,500	7,400	△1,100	7,000	8,200	1,200	35,000	36,400	1,400
営業利益	410	220	△190	400	100	△300	290	160	△130	1,100	480	△620

①日本

売上高は、太陽光発電関連製品の売上が減少しましたが、ハーネス加工用機械・部品、産業機器用製品などのワイヤーハーネス売上が増加しました。営業利益は、太陽光発電関連製品の売上減少の影響などにより減少しました（前回発表予想比 46.3%減）。

②欧米

売上高は、太陽光発電関連製品の売上減少、下半期の在庫調整などにより減少しました。営業利益は、下半期の在庫調整などによる品種構成の悪化や新工場の立上げコストの増加などにより減少しました（前回発表予想比 75.0%減）。

③アジア（日本を除く）

売上高は、下半期の新製品切替時期の延期などによる売上減少がありましたが、自動車・産業機器用製品の売上が好調に推移したため増加しました。営業利益は、下半期の新製品切替時期の延期、自動車・産業機器用製品の生産能力以上の受注や生産拠点の再編・移管などによる生産コスト増加などにより減少しました（前回発表予想比 44.8%減）。

※ 上記の予想は、本資料の発表時現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以 上